

室吞益。

ドンエン 頓園 諱は鸞藝。本願寺純如の子、巧如の弟。初め越前藤島に超勝寺を開いた。今超勝寺に傳へる頓園の影像に、本願寺實如が鸞慶眞影と裏書して居るから、鸞藝は鸞慶の誤であらうといふ者もあるが、反故裏書等に凡べて鸞藝に作つてゐる。頓園後年能美郡粟津に隣接する江沼郡戸津に住坊を構へて本蓮寺と稱し、又同郡西山に淨徳寺を建て、文安四年正月十五日六十一歳を以て本蓮寺に寂した。その超勝寺は嫡子如達玄慶繼ぎ、本蓮寺は二子蓮覺周惠之を享け、淨徳寺は如達玄慶の子珍祐慶惠が繼いだ。

ドンカイ 曇開 ↓キウンドンカイ 希運曇開。

ドンガンジ 頓願寺 鹿島郡國分にあつて、眞宗東派に屬する。初め國分に居り、元和八年小島に移り、寶永九年七尾に轉じ、明治三十八年更に今の地に移つたとある。

トンジヨウ 頓成 ↓タマサキトンジヨウ 靈崎頓成。

ドンスイゼンミヨウ 曇瑞禪面 石川郡曹洞宗大乘寺四十二代の住持。美濃の人、坪井氏。初め牧牛洗牛に全昌寺に投じて出家し、寶曆三年長門金山寺に於いて大曠釣の首職となり、同年周防禪昌寺の門老に傳法、明和元年金澤淨住寺に入り、在任十一年、安永六年金山寺に移り、同年大乘寺の請を受けて入山開堂し、十三年の後退院、攝津に妙法寺・屬本寺を創め、寛政十一年八月朔日妙法寺で寂した。

ドンチヨウジ 頓聽寺 鹿島郡飯川に在つて、眞宗東派に屬する。

ドンドバシ どんど橋 金澤橋梁記に、「どんど橋、三社」とある。三社にあつて、今はどんど橋といふ。どんどとは、小立野の百々女木橋と同じく、その水音をいうたのである。

トンビガミネ 蔭ヶ峰 ↓トビガミネ 蔭ヶ峰。

トンビヤマ 蔭山 ↓トビヤマ 蔭山。

ドンリヨウ 嬭良 ↓キウウガイドンリヨウ 久外嬭良。

ナ

ナイケンチ 内檢地 加賀藩の初期では一國一郡を通じて行ふ惣檢地の外、通祖の隱田を發き、川崩等の變地を査定する場合に、部分的の檢地を行つたが、その後古田は假令變地の爲地積に不足を生じたことを申立て、も容易に檢地を許さず。又新開極高・畑直極高等には、本檢地の手續が繁雜であるから、内檢地を以て之に代へることにした。故に寛文六年の書上には少分の本檢地を行つたことが見えるが、元祿年中には容易に檢地を執行せざることを規定し、享和二年には又本檢地の手續を定め、同年石川郡奥池村・内尾村に之を行つた。次いで文政元年の勤方帳には、普通土地不足には檢地を行はず、川崩等によつて村高過分に減じ、永久復舊の見込なき場合にのみ、詮議の上之を許すといひ、その頃越中彌波郡久泉村・柳瀬村を檢地したが、爾後本檢地を行ふこと全く絶えた。されば天保

中貧村にして實際土地不足のものは檢地を出願することを得と布告したに拘らず、彌波郡西明寺村等四ヶ村が之を請うた時本檢地を行はず、西明寺村には内檢地によつて引免を許し、草高の減少と同一の効果を與へ、他の三ヶ村は地元甚だしく狭少ならざる理由で願書を撤回せしめた。内檢地を行ふ手續は、定檢地奉行が出張せず、御扶持人十村が執行の任に當り、竿取人に自郡の者を用ひ、新開裁許を參與せしめるのである。併しその事情甚だ困難な場合には、他郡から選定した折役・繩張人・竿取人を隨へた改作奉行の出張することもある。

ナイトウカチカ 内藤賢周 通稱秀太郎。儀八郎・勘左衛門・勤兵衛。寛政七年幼少で祖父彌三郎元理の遺知三の一を襲ぎ、九年本知百石に復し、定番御馬廻組江戸御廣敷番となり、文政八年同御用人に進み、天保十年五十石を加へて頭並となつた。

ナイトウキウホ 内藤休甫 また求甫に作る。貞享三年羽咋郡荻谷村の在郷人内藤又助等に關する御算用場奉行の言上書に、「父内藤求甫微妙院様に被召出、御知行千七百石被下、御奉公申上候處、親德庵異國に罷越候節一所に罷越、德庵死去以後御國に罷歸有之處、陽廣院様御意に而、寛永貳拾年に江戸に被召寄、宗門御吟味に公儀に御出し候之處、正保二年御赦免被爲成、御國に被遣、御扶持方拾人扶持被下、延寶元年十二月病死仕由御座候。」と記して、恰も休甫が德庵の子好次であるが如く傳へてゐる。しかし好次は慶長七年前田利長から千七百石を祿せられた人といふから、延寶中まで生存し得たとはいへず

られぬ。(内藤氏由緒に、好次の加賀に來たのを慶長元年とする説は採らぬが、若し然りとすれば尙更である。)特に一旦呂宋に流されたものが、無事に再び入國して歸藩してゐたと思はれぬ。恐らくはこれらは家傳の誤謬で、休甫は德庵の族人に相違ないが、外國に伴はれたものでなからう。但し休甫の子孫が切支丹類族を以て遇せられたことの事實は、元祿十五年又助弟彌左衛門の娘さる病死の際の文書によりても明らかである。後彌左衛門の曾孫孫三郎玄理の時、天明五年前田治脩は百石を給し、後裔世々之を繼いだ。

ナイトウケンカン 内藤元鑑 諱は均。文化十三年父宗純の遺知の内二百石を受けて藩醫に任じ、文政五年から七年までは前田齊廣附となり、齊廣の卒後又表勤となつたが、天保九年十月三日五十九歳を以て歿した。

ナイトウコウスケ 内藤數輔 大聖寺藩士。後聰男・歸一。江戸定府内藤勝右衛門の弟。文久三年正月新たに召出されて大聖寺居住を命ぜられ、新流砲術師範となり、明治元年八月加賀藩の軍に加りて北越戦争に従つた。

ナイトウジュンリヨウ 内藤恂良 初め越中放生津の町醫者であつたが、明和九年召出されて二十人扶持を賜ひ、安永中更に十人扶持を加へ、天明五年歿。子孫宗安・宗純・元鑑・宗春等相繼いだ。

ナイトウスケザエモン 内藤助左衛門 初名左近。佐野修理大夫政綱の子で、内藤大和守に養はれ、北條氏政の臣として筑井城を守つたが、後に前田利長に來仕し、祿四百石を受けた。子孫藩に世襲する。

ナイトウセイ 内藤誠 前名を誠左衛門と